

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年10月10日
枚方市立伊加賀小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

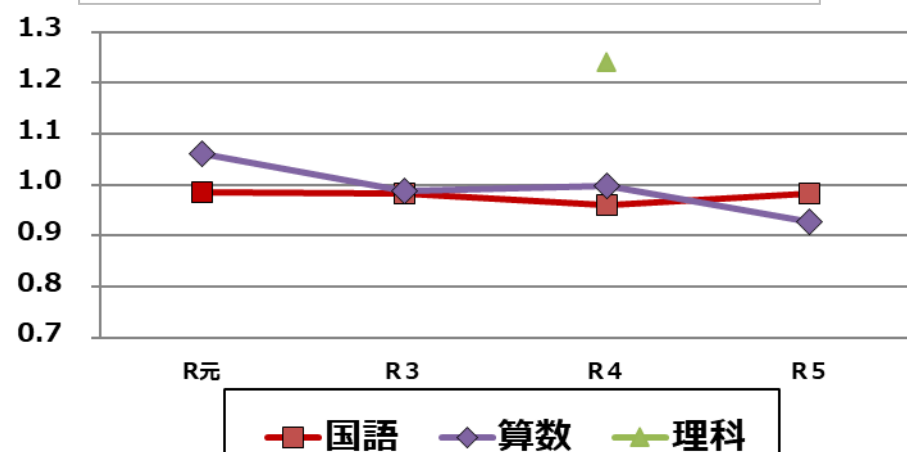
【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（全国の平均正答率を1とした経年比較）



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、令和5年度未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることや、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題が見られました。文章の種類とその特徴について理解しているか等、大阪府・全国の平均正答率を上回るものもありましたが、少しだけ下回る問題が多く見られました。

○算数について

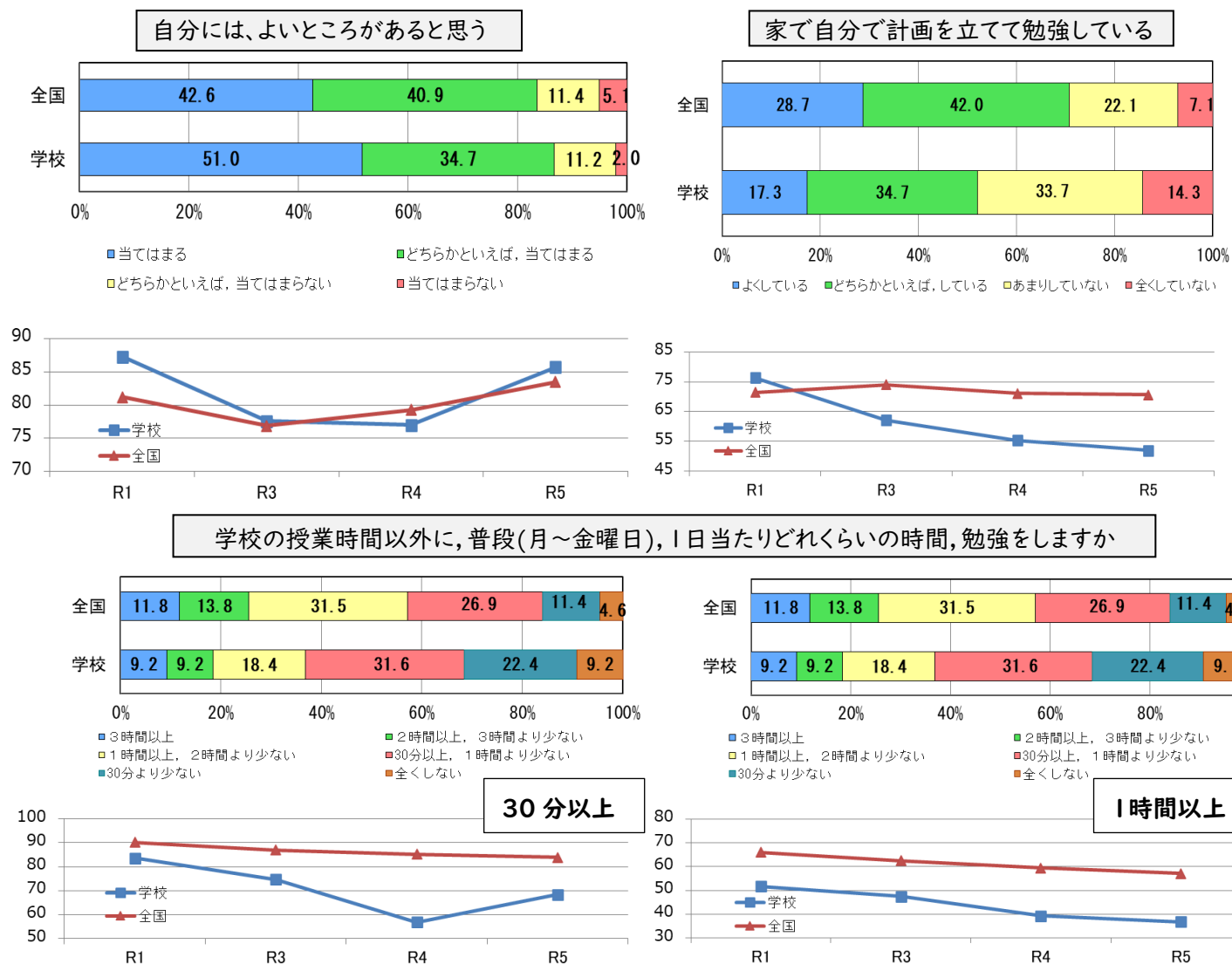
→百分率で表された割合について理解しているかどうかをみることや、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみることに課題が見られました。示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる等、大阪府・全国の平均正答率を上回るものもありましたが、下回る問題が多く見られました。

質問紙調査の結果



※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>

- 「自分には、よいところがあると思う」が3年ぶりに上昇に転じ、全国の肯定的回答率を上回りました。
- 「自分で計画を立てて勉強」することには、大きな課題があります。ここ3年下降傾向にあり、今回大阪府・全国の肯定的回答率を更に大きく下回りました。
- 1日の勉強時間についても全国の割合を大きく下回ります。30分以上の割合は上昇に転じたものの、1時間以上については引き続き下降しており、家庭学習の定着が大きな課題です。

まとめ

全国平均と比べ学力調査の結果、質問紙調査の結果ともにやや下回っている傾向があり、相関関係が見てとられました。国語では記述式の問題に対して課題が見受けられるので、自分の考えなどをまとめ表現する力の向上が必要です。また、算数では知識・理解の問題に対して課題があり、言語活動の充実を通して、「知識力・理解力」「思考力・判断力」のバランスのとれた育成が必要です。質問紙調査の結果の中で、自己肯定感が学習習慣に関しては定着に大きな課題があります。引き続き改善を図り、学力の向上につなげていくことが必要と考えています。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる

4
予想される反論に対する自分の考えを主張している。

3
調査で明らかになったことを整理して説明している。

2
調査方法についてよりよい手順を提案している。

1
野菜作りなどくらべた米作りのよさをすすめている。

四 川村さんは学習をふり返り、「川村さんの文章」の特徴をまとめています。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。ウ きかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量

(単位)

日	農家の田んぼの雑草の量	学校の田んぼの雑草の量
7月1日	2	1
7月8日	3	1
7月15日	4	1

10㎡あたりの雑草を取って同じ大きさのバケツに入れ、その個数を雑草の量とする。

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

	正答率	無解答率
本校	84.0	0.0
全国	79.8	2.0

(考察) 言語活動の充実について、取り組んできた成果が見られました。

質問紙調査の国語に関する項目の「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答が 90Pt を上回り、全国・大阪府の平均と同等になりました。一方で「国語の勉強は好きですか」が、全国・大阪府の平均を大きく下回っています。

主体的で深い学びに結び付く授業改善、加えて国語好きを増やすことができるよう取り組んでいきます。

【課題】

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる

四 相田さんは、「資料1」、「資料2」、「資料3」を読み、運動と食事について分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを考えてまとめようとしています。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

○ 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。

○ 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くこと。

○ 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の表は、書き始めるための表です。使っても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※右の表は、書き始めるための表です。使っても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	44.7	10.6
全国	56.2	8.5

(考察) 複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題が見られました。この問題は、複数の資料に基づいて自分の考えをまとめるという条件があるにも関わらず、例えば食事に関する資料の内容や考えのみ書いており、運動については言及していない等の誤答がありました。児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように今後指導することが大切であると考えます。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる

(2) けんたさんの学級では、1人が3種類のファイルを1冊ずつ使うことにしました。それぞれのファイルの厚さは、1.4 cm、1.6 cm、2 cmです。けんたさんの学級の人数は23人です。

下のような、はば120 cmのたなに、ファイルを全部並べて入れることができるかどうかを考えています。

3種類のファイル23人分を全部並べた長さは、何 cm ですか。

全部並べた長さの求め方を、式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

さらに、たなにファイルを全部並べて入れることができるかどうかを、下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

1 入れることができる。

2 入れることができない。

	正答率	無解答率
本校	59.7	2.1
全国	56.7	4.0

(考察) 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することについて、成果が見られました。無回答率が低いのも言語活動を重視した授業の成果であると考えます。

【課題】

二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる

4

あいかさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。

1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 100人をもとにした0.3人の割合

イ 100人をもとにした3人の割合

ウ 100人をもとにした30人の割合

エ 10人をもとにした3人の割合

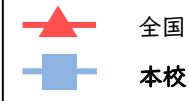
オ 30人をもとにした1人の割合

	正答率	無解答率
本校	54.3	0.0
全国	64.6	4.0

(考察) 複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からどのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導することが大切であると考えます。

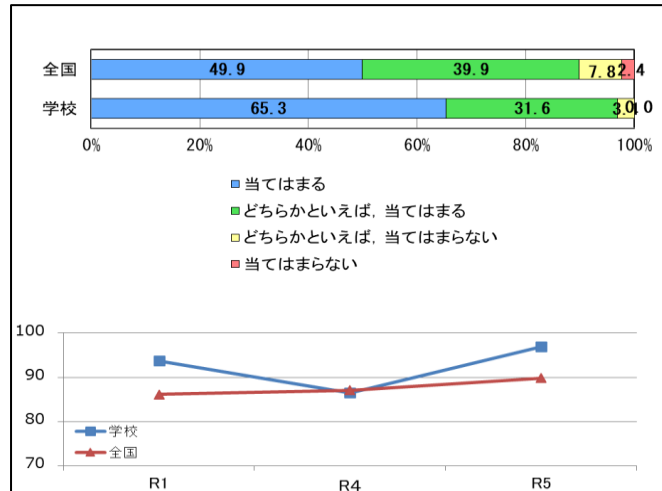
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

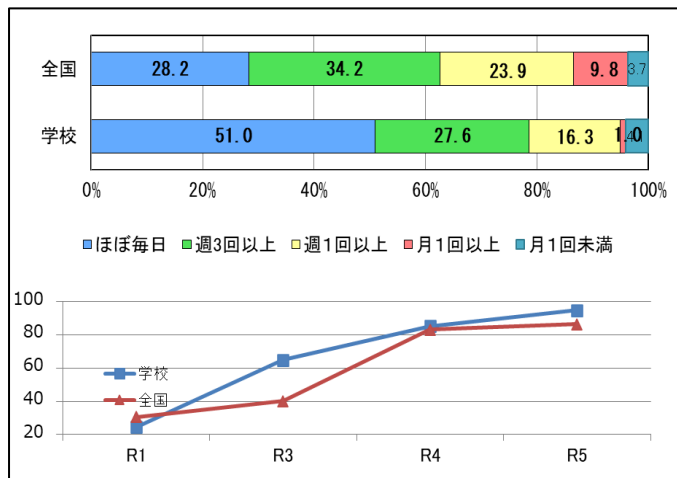


【成果のあった項目】

①先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

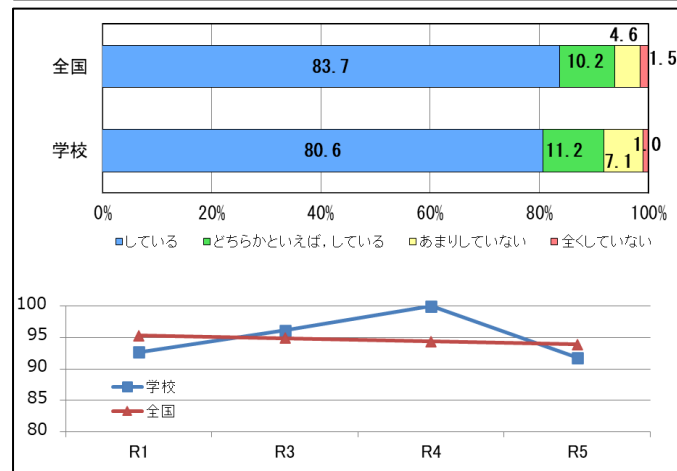


③5年生までに受けた授業で、PC・タブレットの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

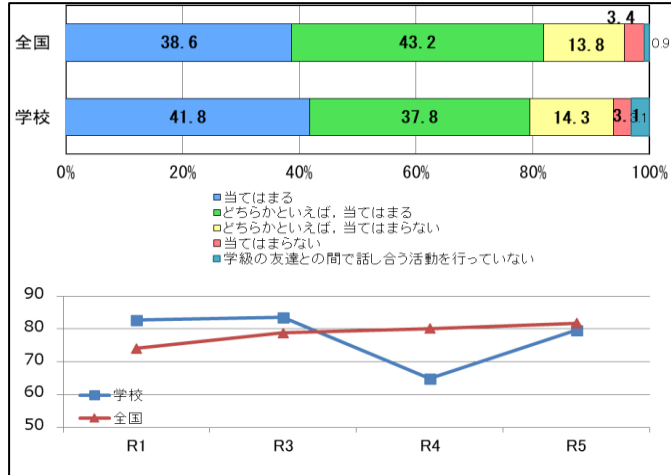


【課題が残った項目】

④朝食を毎日食べている



②学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



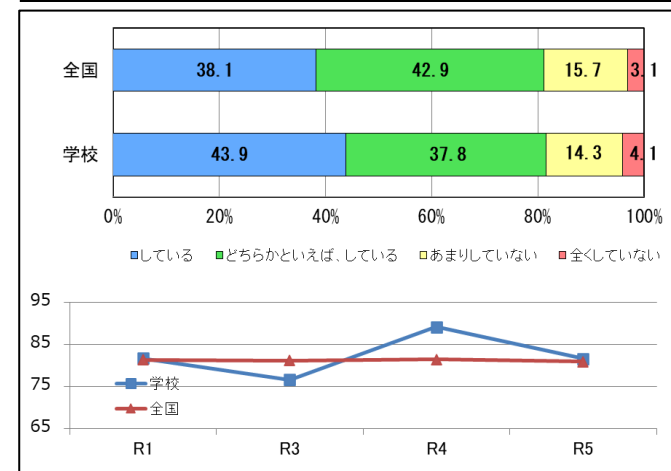
(考察)

全体概要でもお示したように、「自分には、よいところがあると思う」が3年ぶりに上昇に転じました。これは、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」が上昇したことが理由の一つであると考えます。これからも自己肯定感の高まる安全・安心の学校づくりを推進してまいります。

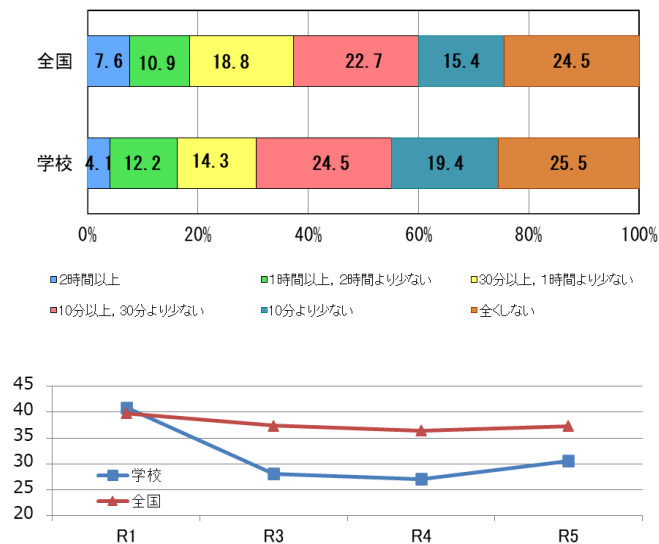
また②③は、本校の進める言語活動を中心とした「協働的な学び」や「枚方版 ICT 教育モデル」に基づいた「主体的・対話的で深い学び」を実現するための本校の取組の成果と言えます。

特に、「枚方版 ICT 教育モデル」の5C の中でも本校では Communication と Collaboration を主として取り組んでおり、今後更に子どもたちの学びを支え、可能性を伸ばしていきたいと考えています。

⑤毎日、同じくらいの時刻に寝ている



⑥学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか【30分以上】



(考察)

学校司書の配置を受け、学校図書館の整備や、図書の充実など、子どもたちの読書活動を推進するための読書環境の改善に努めています。今年度、初めて上昇に転じましたが、以前として全国の回答率を下回る結果となりました。

家庭での蔵書数や読書の時間は、学力との相関関係があることがわかっています。子どもたちにとって、読書活動が魅力的なものになっていくように、今後、様々な取組を通して、読書時間の増加につなげていくことができたかと考えています。

また④⑤について、共に下降に転じていることも気になります。食育や保健指導を通して、規則的な生活の大切さを指導してまいります、ご家庭のご協力もいただけるとありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

(1) 授業改善について

今年度も引き続き、神戸常盤大学の山下敦子教授を招聘し、「児童が自ら高め合うことができる子どもの育成(言語活動の充実)」を研究テーマとした授業改善を、国語科を中心に取り組んでいます。授業では、つけたい力を明確にした言語活動を設定し、単元ごとに単元計画を作成・掲示するなどして、定着するようにしています。発達段階に応じて、児童へ学習計画を配付し、学習の振り返りをする事で自分たちについての力や単元のゴールを意識して取り組むことができるよう、個別最適な学びを充実させます。

また、読書に親しむために、朝読書の時間を週一回金曜日に設定、学校司書と共に、休み時間の図書室の開放を実施しています。発達段階に応じて、読み聞かせや本の紹介・リクエスト、読書週間等を実施し、魅力ある学校図書館づくりを行っています。さらに読み聞かせボランティア「おはなしエルマー」さんにご協力いただき、より一層の読書活動を推進してまいります。

「枚方版 ICT 教育モデル」に基づいた「主体的・対話的な学び」を継続的に実践するため、Communication(意思伝達)と Collaboration(協働)を意識した授業づくりをさらに拡充し、協働的な学びを実践します。

(2) 家庭学習について

家庭学習を充実させるために、今年度は1年生から自学ノートに取り組み、職員室前の掲示コーナーを使って他の学年の取り組みを共有しています。また、家庭学習の仕方については引き続き検討を進めます。今年度中に、各学年の取組事例の交流を学力向上委員会で行い、その内容を検証し、授業と家庭学習を効果的につなげるシームレスな学びや個別最適な学びの充実を図ります。

また、navima 等の ICT を活用した家庭学習の定着につながる取組も並行して取り組みたいと考えています。より指導の個別化・学習の個性化の取組になるよう、研究を進めていきます。

今後とも本校の取組にご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。